

朝日求人

仕事力

「君の原動力は見つかったか？」

安藤忠雄が語る仕事

1234

失敗を乗り越える力を持って

若者はぬるま湯から
抜け出せ

近頃耳にした笑えない話です
が、外出先で具合が悪くなっ
ているおじさんが若い人に助け
を求めた。おなか痛い、心臓
が苦しいと言ったら、「ああ、そ
うですか。頑張ってください」
とだけ言ってその場から立ち去
ってしまったそうです。そんな
バカなと思いましたが、それだ
け今の若者は他者に対して無関
心で、普段から余計なことには
関わらないようにしながら生き
ているというところでしょう。だ
から人の命にかかわるようなこ
とが目の前で起こっていてもそ
の場から遠ざかることしかでき
ない。

それというのも団塊世代にあ
たる、今の若者の親たちが、子
どもには失敗のない人生を送っ
て欲しいという思いから過保護
に育ててきたことが原因ではな
いかと思います。親世代の頭の
中からは、一流企業にさえ入れ
ば生涯安泰だという刷り込みが
消えない。そのため、いまだに
小さな頃から塾通いをさせるな
ど、子どもから自分の判断で行
動する自由を奪い続けています。
私は数年前に、東大の入学
式で祝辞を頼まれて出席した

時、絶望的な気持ちになりま
した。東大では3千人の入学
生に対して、保護者が6千人
来るんですよ。「これから懸命
に学んで自立していけ」と、
親が子どもから手を離す時な
のにいつまでも一緒にいる。
私は、2階席にきょろきょろと並
んでいる親たちに向かって
「今日は子どもの自立の日だ
から、2階席の方は出て行って
ください」と言いました(笑)。

若い人は失敗を怖がりませ
うが、それは、生まれてからず
っと過保護に育てられ、与え
られた道の上だけを歩んでき
たからです。自分はぬるま湯
につかっていたんだと気付か
なければなりません。仕事は、
失敗してそれを克服するから
面白いのです。仕事力とは
「失敗を乗り越える能力」の
ことですから。

日常で判断力を磨け

日常生活を全て親にサポー
トしてもらったら、何が欠落
するかと言えば、判断力です。
仕事でも生活でも、人間はい
つも判断の積み重ねで前へ進
んでいくわけですが、それが
できないから立ち止まること
になる。せめて、自分の暮ら

しに必要なものは自分で判断し
てそろえていくことから始め
てどうか。住む所も、着るもの
も、毎日の三度の食事も意識し
て、自分自身で選ぶこと。そう
いう小さな行動の積み重ねが
必ず生きていく力になります。
こんなことを私が発言しな
くてもならないほど、日本中の若
い人が自分と向き合うという体
験をしています。日常の生活
を取り戻さなければ、仕事や人
生を愛することができない。例
えば建築家を目指すとしても
しっかりと「日常」を送って
いないと、どんな家に住むと五
感に心地よいのか、季節を感
じられるのか、建物が街の景
観に溶け込めるのかという重
要なことについての判断がで
きないのです。

私は、日本の元気がない現状
が残念で、何とかできないもの
かと焦りを感じています。若い
人が仕事に対して本気になれな
い、挑戦する気持ちを持ってな
いという実情も見えますが、日
本人の底力はこんなものではな
いという思いがあります。10人
のうちの1人でも2人でも、自
分がぬるま湯につかっているこ
とに気付いて、そこから抜け出
す努力をして欲しいと願って
います。(談)

あんどうただお ●建築家。1941年大阪府生まれ。独学で建築を
学び、69年安藤忠雄建築研究所を設立。主な作品に「住吉の長
屋」「光の教会」「国立国会図書館国際子ども図書館」「フォ
ーツ現代美術館(アメリカ)」「アルマーニ テアトロ(イタリ
ア)」「表参道ヒルズ」「地中美術館」など多数。イエール大学、コロ
ンビア大学、ハーバード大学の客員教授を務め、97年から東京
大学教授、2003年から同名客員教授。文化勲章ほか受賞歴多数。
主な著書に「建築に夢をみた」(日本放送出版協会)、「運命運
敗」(東京大学出版会)「建築家 安藤忠雄」(新潮社)などがある。